

第5章

働き方と幸福実感

この章では、「女性の就労」や「希望の就業時間と実際の就業時間」など、幸福実感との関連が一定あると考えられる働き方に関する質問の分析、また、働き方に関連して、通勤時間や生活に関わる悩みや不安等についての分析を記載しています。

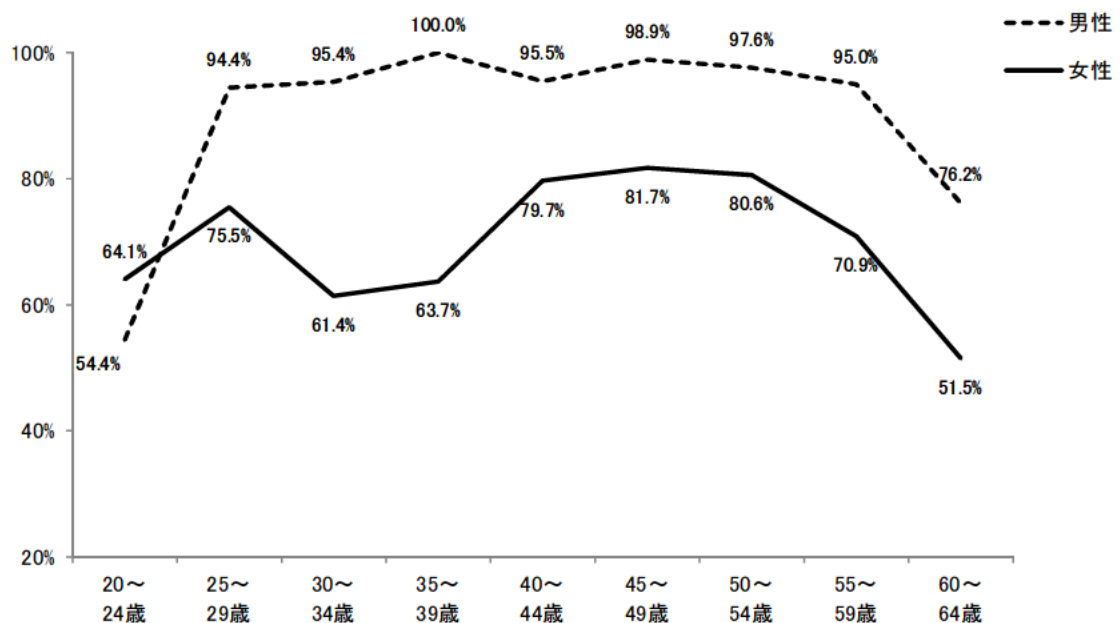
第1節 女性の就労

1 女性の就業状況

20～64歳を対象に年齢(5歳階級)別有業率を見ると、男性は20代後半から50代まで90%を超える台形型、女性は30代を底とするいわゆるM字型となっています(図表5-1-1)。

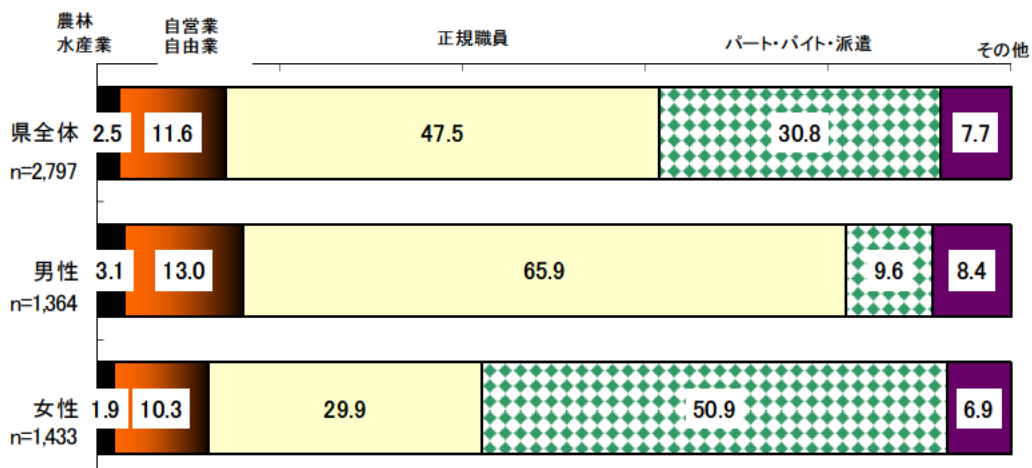
また、有業者の職業別割合を見ると、男性では「正規職員」(65.9%)が最も高いのに対し、女性では「パート・アルバイト・派遣社員など」(50.9%)が最も高くなっています(図表5-1-2)。

図表 5-1-1 性別有業率(年齢(5歳階級)別)



(備考) 農林水産業、自営業・自由業、正規職員、パート・アルバイト・派遣社員など、その他職業を有業とした。

図表 5-1-2 有業者の性別・職業別割合(20～64歳)



2 女性就労についての考え方

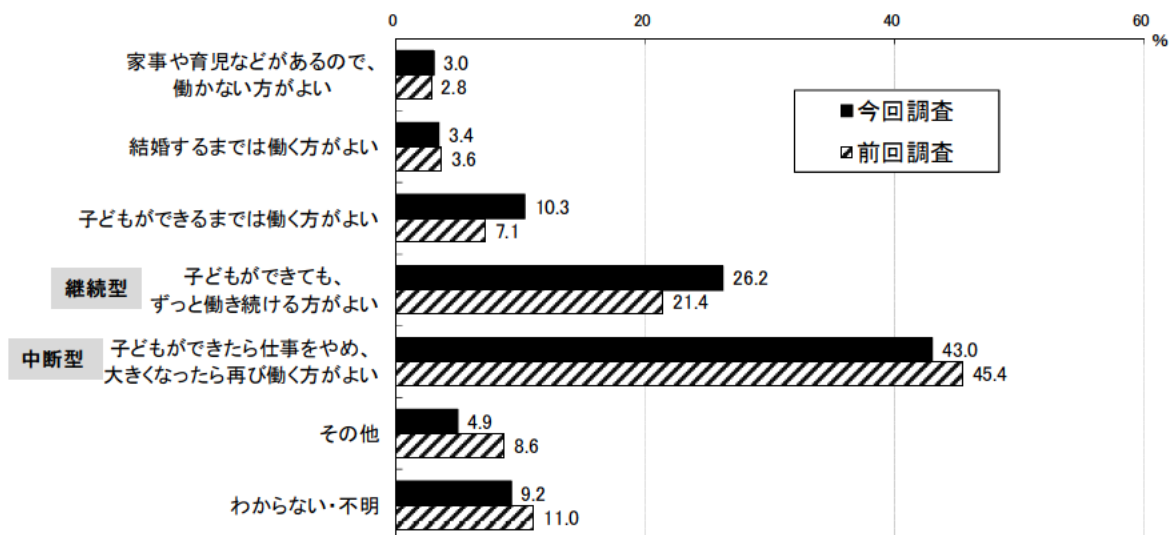
(1) 全般的事項

前回調査に続いて、女性就労に対する考え方について「女性が働く（収入のある仕事をする）ことについてどう思うか」質問したところ、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び働くほうがよい」の『**中断型**』が**43.0%**と最も高く、次いで「子どもができて、ずっと働き続けるほうがよい」の『**継続型**』（26.2%）と、**前回調査と同様に『中断型』の割合が『継続型』よりも高くなっています（図表5-1-3）。**

『**継続型**』と『**中断型**』の違いはあっても、**子どもができて以降も働く方がよいという考え方が前回も今回も圧倒的に多い結果と考えられます。**

なお、調査方法等が同一ではないことから、単純な比較はできませんが、**国の調査では『継続型』の割合が最も高くなっています。（図表5-1-4）**

図表 5-1-3 女性就労についての考え方(県全体・前回調査との比較)



図表 5-1-4 参照した国の調査

男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府、平成24年10月、有効回収数3,033、個別面接聴取法）
 (質問) 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。
 (回答) (ア) 女性は職業をもたない方がよい(3.4%)
 (イ) 結婚するまでは職業をもつ方がよい(5.6%)
 (ウ) 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい(10.0%)
 (エ) 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい(47.5%)
 (オ) 子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい(30.8%)
 その他 (1.4%) わからない (1.3%)

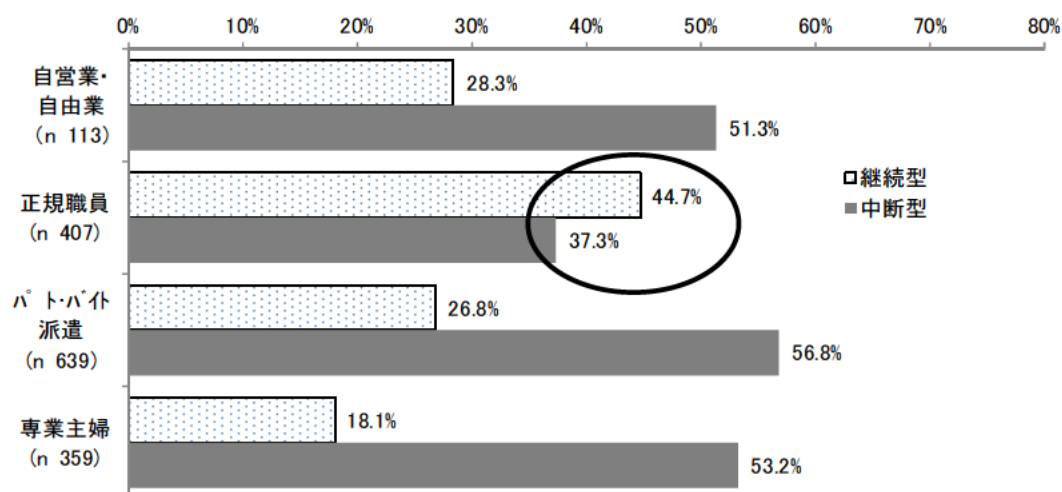
(2) 実際に働いている女性等の考え方

① 本人の職業別の考え方

20～59歳の女性について、本人の職業別に女性就労に対する考え方を見ると、正規職員は『継続型』が『中断型』よりも高い割合となっています(図表5-1-5)。

なお、20～59歳の男性について、本人の職業別に見ると、すべて『中断型』が『継続型』を上回っています(図表5-1-6)。

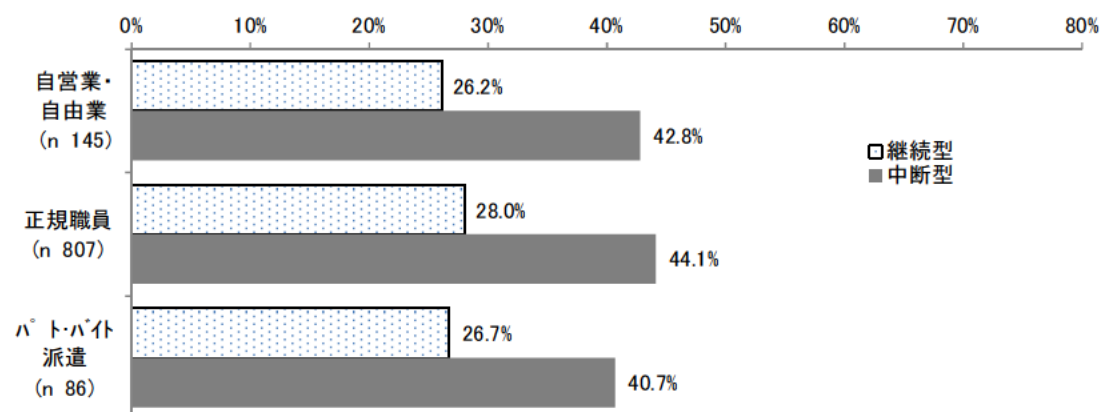
図表 5-1-5 女性(20～59歳)の女性就労についての考え方(本人の職業別)



(備考) 1 nは全体のサンプル数を示し、割合は表記を省略した他の回答や不明を含めて算出しています。

2 上記以外の区分については、サンプル数が少ないため、表記を省略しています。

図表 5-1-6 男性(20～59歳)の女性就労についての考え方(本人の職業別)



(備考) 1 nは全体のサンプル数を示し、割合は表記を省略した他の回答や不明を含めて算出しています。

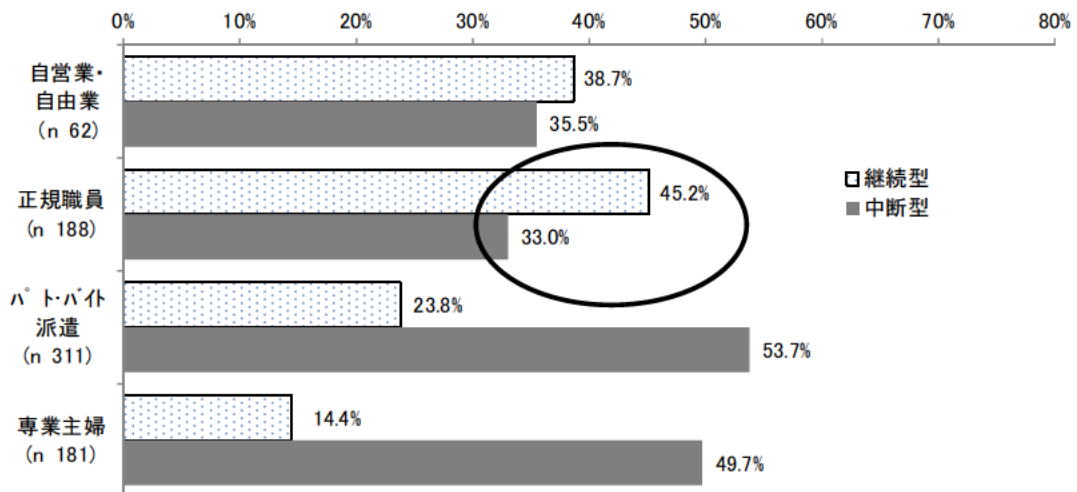
2 上記以外の区分については、サンプル数が少ないため、表記を省略しています。

② 配偶者の職業別の考え方

20～59 歳の男性について、配偶者の職業別に女性就労に対する考え方を見ると、配偶者が正規職員、自営業・自由業の場合は『継続型』が『中断型』よりも高い割合となっています(図表 5-1-7)。

また、20～59 歳の女性について、配偶者の職業別に見ると、配偶者がパート・アルバイト・派遣社員など、無職の場合には『中断型』と『継続型』が近い割合になっています(図表 5-1-8)。

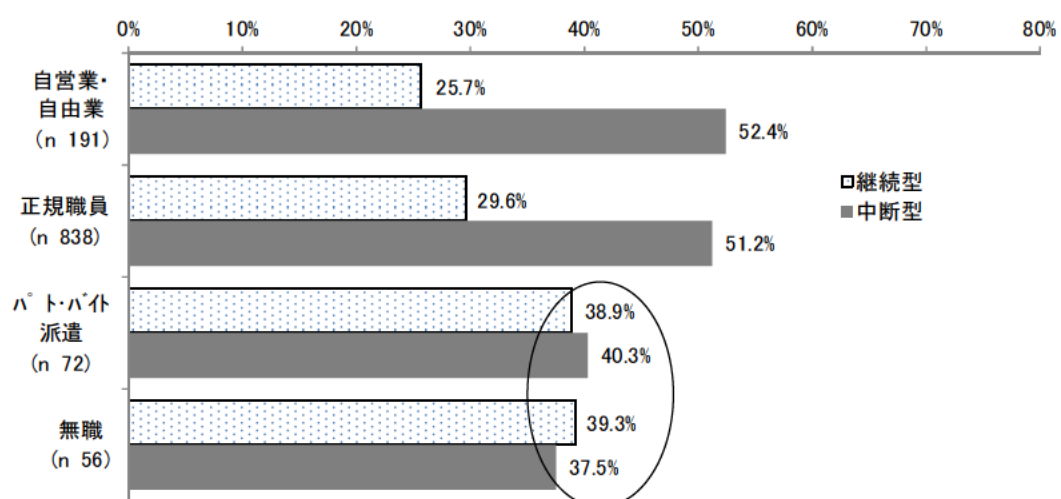
図表 5-1-7 男性(20～59 歳)の女性就労についての考え方(配偶者の職業別)



(備考) 1 nは全体のサンプル数を示し、割合は表記を省略した他の回答や不明を含めて算出しています。

2 上記以外の職業については、サンプル数が少ないため、表記を省略しています。

図表 5-1-8 女性(20～59 歳)の女性就労についての考え方(配偶者の職業別)

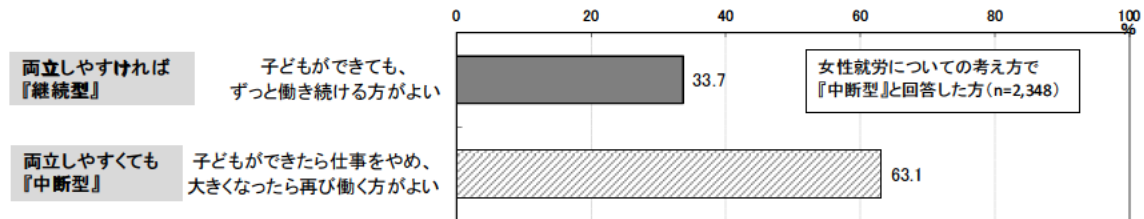


(3) 仕事と子育てが両立しやすい場合の考え方

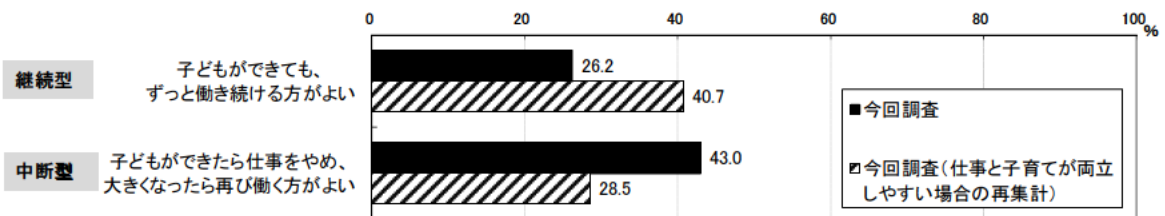
今回調査では新たに『中断型』と回答した方を対象に「もし現在よりも、仕事と子育ての両立がしやすい環境にあるとするならば『継続型』と『中断型』のどちらを選択するかを質問しています。その結果、両立しやすければ『継続型』という回答が 33.7%、両立しやすくても『中断型』という回答が 63.1%でした (図表 5-1-9)。

なお、再質問の結果を当初回答を含めて再集計すると『継続型』が 40.7% (+14.5 ポイント)、『中断型』が 28.5% (-14.5 ポイント) という結果になっています (図表 5-1-10)。

図表 5-1-9 女性就労についての考え方 (仕事と子育てが両立しやすい場合)



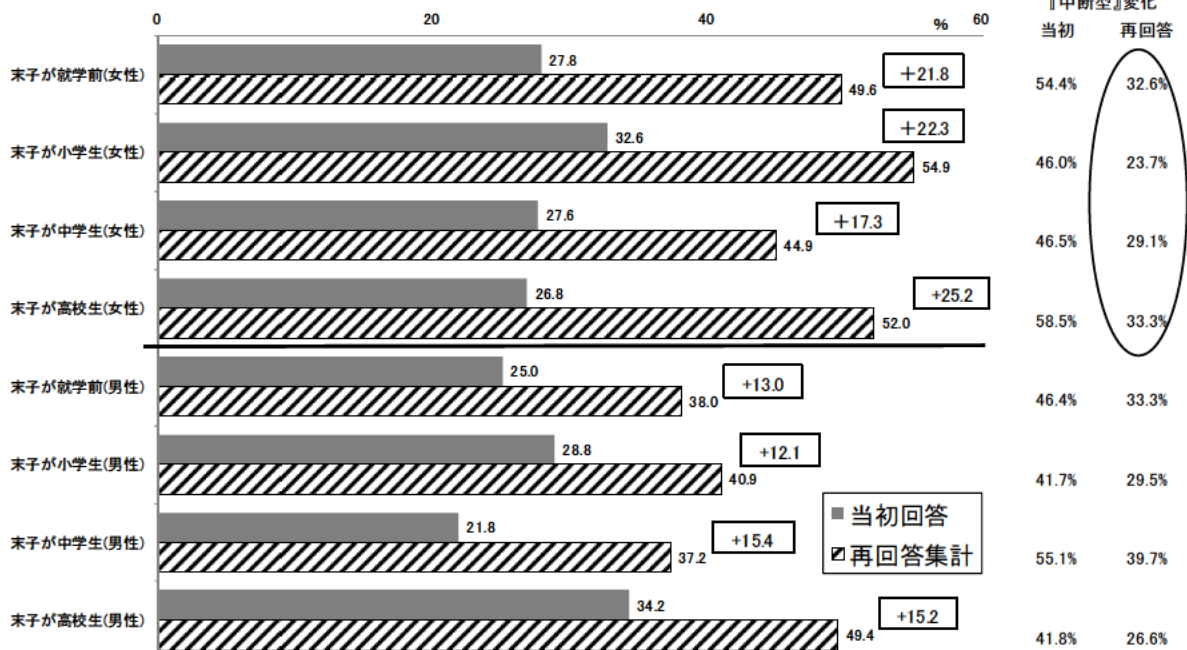
図表 5-1-10 女性就労についての考え方 (仕事と子育てが両立しやすい場合の再質問を含めた集計・全体)



① 子育て世代の割合の変化

現在、子どもをお持ちの方について、性別に再集計結果を見ると、男女とも継続型の割合が増加していますが、高校生までの子どもを持つ女性については、県全体 (14.5 ポイント増) よりも大きく『継続型』の割合が増加しています。一方、両立しやすくても『中断型』という回答が、再集計後で 23.7%~33.3%の割合でした (図表 5-1-11)。

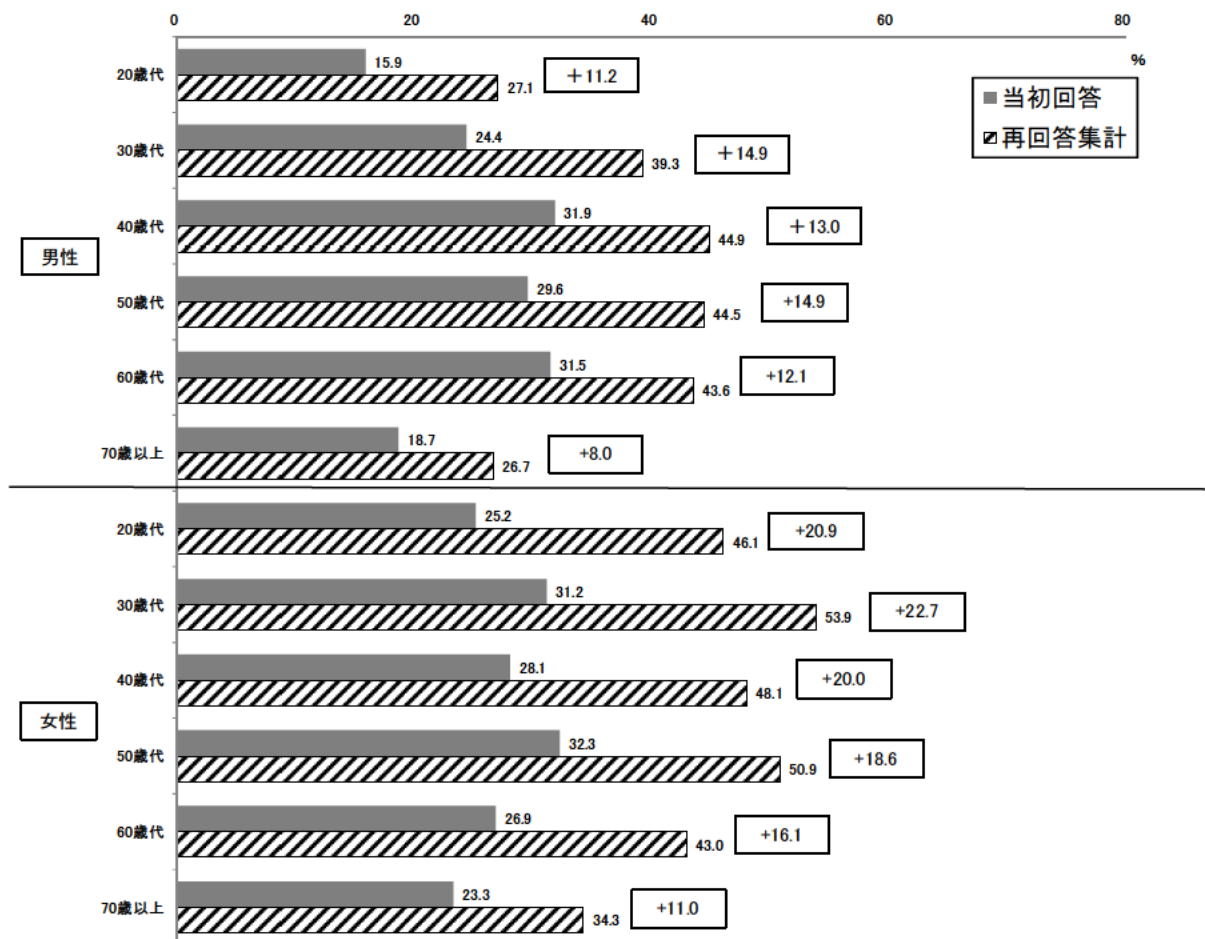
図表 5-1-11 子どもがいる方の再質問による『継続型』の割合変化 (性別)



② 『継続型』割合の変化の特徴

子育て世代に限らず、性・年齢別の再質問による『継続型』の割合変化を見ると、男性の増加幅が8.0ポイントから14.9ポイントであるのに対し、女性は20～40歳代で20ポイント以上増加するなど、各年齢層において女性の増加幅が男性よりも大きくなっています（図表5-1-12）。

図表 5-1-12 再質問による『継続型』の割合変化（性別・年齢（10歳階級）別）



第2節 現実の働き方と希望する働き方

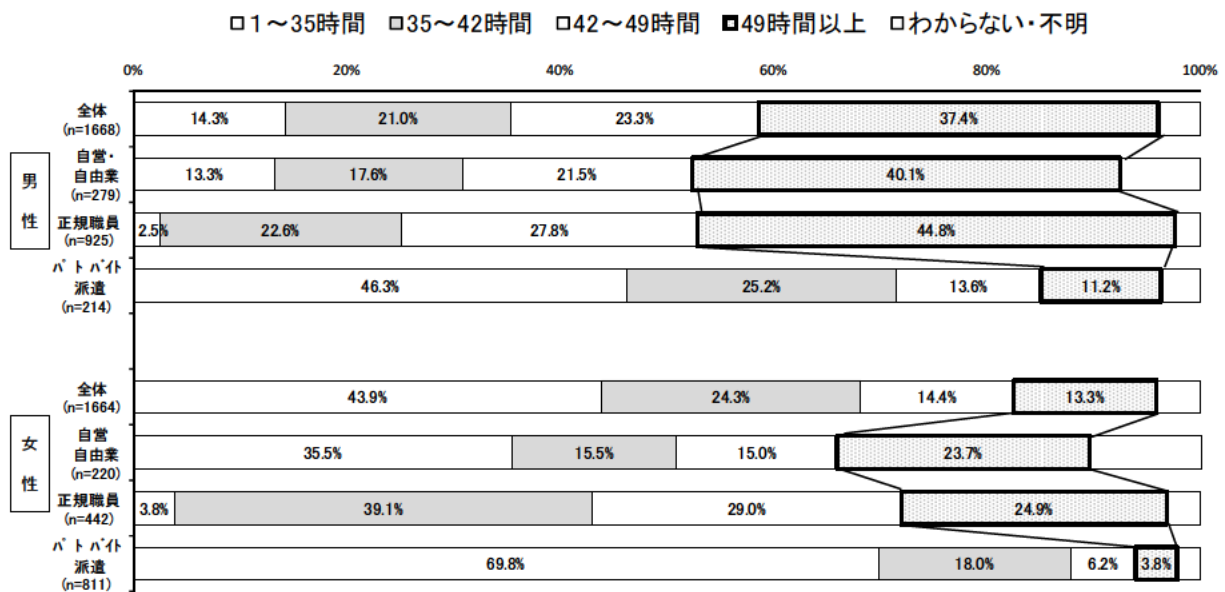
1 就業時間の特徴

(1) 長時間労働の状況

一週間の平均的な就業時間を性別で見ると、男性では「49時間以上」(37.4%)の割合が最も高く、女性では「1~35時間未満」(43.9%)が最も高くなっており、男女で就業時間に差がみられます。さらに性・職業別に見ると、男性の自営業・自由業及び正規職員では、49時間以上が4割を超え、長時間労働の割合が高くなっています(図表5 2 1)。

また、49時間以上と回答された割合が高い属性についても、男性、20~40歳代、正規職員、未婚などとなっています(図表5 2 2)。

図表 5 2 1 一週間の平均的な就業時間(性・主な職業別)



(備考) 1 各区分の割合について、10%未満については、記入を省略しています。
2 農林水産業については、サンプル数が少ないため、記載をしていません。

図表 5 2 2 実際の就業時間について特徴のある属性項目

35時間未満		35~42時間未満		42~49時間未満		49時間以上	
割合が低い	割合が高い	割合が低い	割合が高い	割合が低い	割合が高い	割合が低い	割合が高い
男性 20~30、50代	女性 60以上	30代、70~	60代	女性 40代、60~	男性 20~30、50代	女性 60~	男性 20~40代
自営、正規	農林、パート等	自営、パート等	正規	農林、パート等	正規	農林、パート等	自営、正規
未婚	有配偶		未婚		未婚		未婚
単独	一世帯					単独	
600万円~	~300万円	~100万円	1000万円~	100~200万円		~300万円	600~800万円、1000万円以上

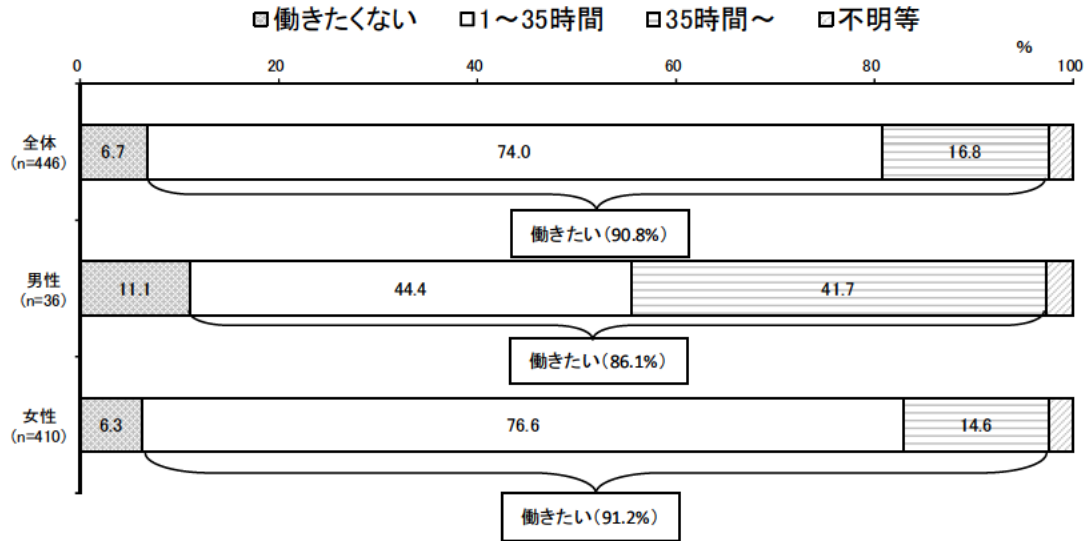
(備考) 1 「割合が低い」は、各就業時間の回答割合が県全体より低い属性項目で、「割合が高い」は、各就業時間の回答割合が県全体より高い属性項目で、いずれの差も統計的に有意な水準(危険率5%未満)のものを記載しています。
2 金額は世帯の年間収入です。

2 現在収入のある仕事に就いていない方の就労希望

(1) 60歳までの就労希望

20～50歳代で、現在は収入のある仕事に就いていない方の希望する就業時間を見ると、全体では90.8%、男性の86.1%、女性の91.2%が働きたいという回答がありました。なお、希望する時間は女性の76.6%が「1～35時間未満」のパトタイム相当の時間となっています(図表5 2 3)。

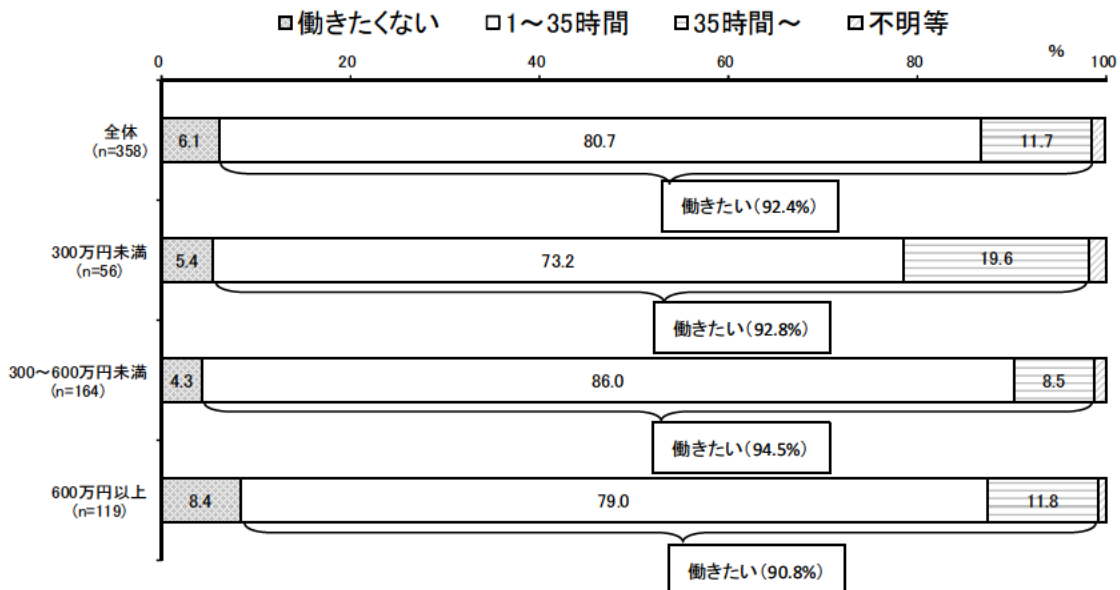
図表 5 2 3 20～50歳代の収入のある仕事に就いていない方の希望就業時間(性別)



(備考) 専業主婦・主夫及び無職を対象に集計しています。

また、そのうち、専業主婦に相当する有配偶の女性について世帯年収別に希望就業時間を見ると、300万円未満の層でフルタイム相当の35時間以上の希望が多くなっています。また、600万円以上の層でも90.8%が働くことと希望しています(図表5 2 4)。

図表 5 2 4 有配偶の女性で収入のある仕事に就いていない方の希望就業時間(20～59歳)(世帯年収別)

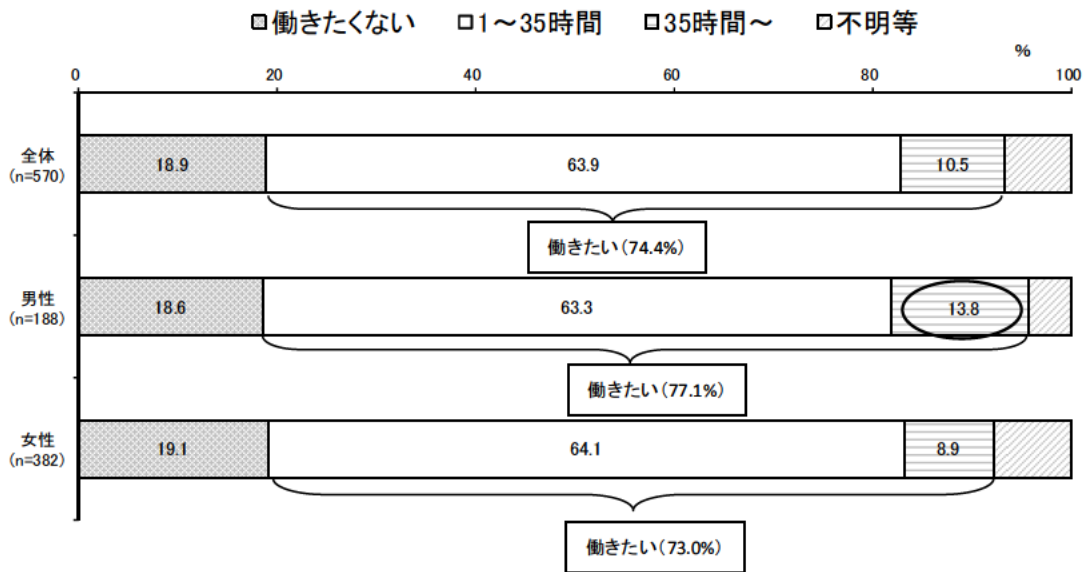


(2) 高齢者の就労希望

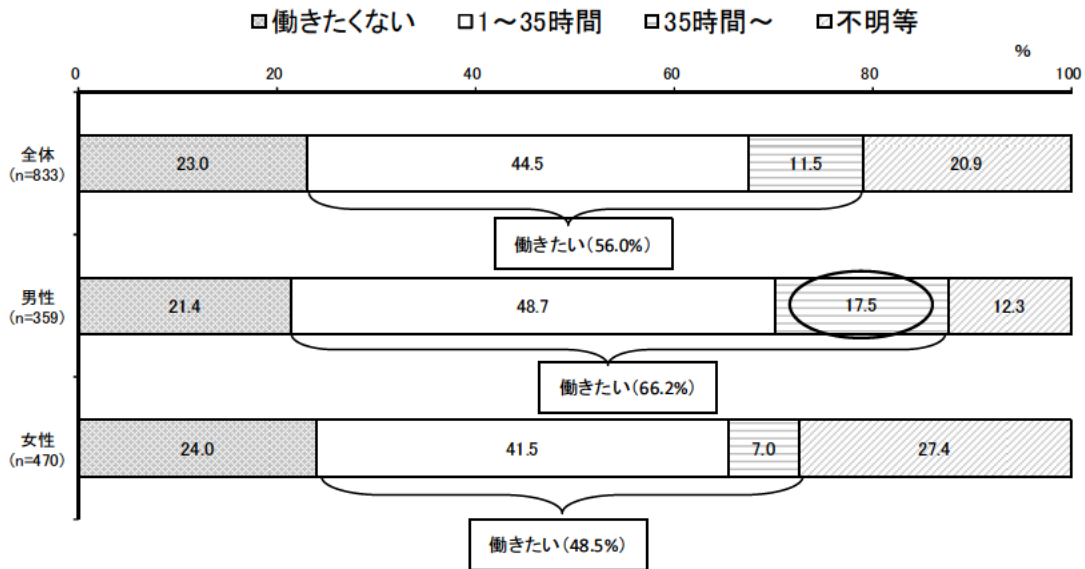
60歳代で現在は収入のある仕事に就いていない方の希望する就業時間を見ると、全体では74.4%、男性の77.1%、女性の73.0%が働きたいという回答があり、男性の13.8%は35時間以上のフルタイム相当の時間を希望しています(図表5.2.5)。

また、同様に70歳以上の希望する就業時間を見ると、全体では56.0%、男性の66.2%、女性の48.5%が働きたいという回答であり、男性の17.5%はフルタイム相当の時間を希望しています(図表5.2.6)。

図表 5.2.5 60歳代の収入のある仕事に就いていない方の希望就業時間(性別)



図表 5.2.6 70歳以上の収入のある仕事に就いていない方の希望就業時間(性別)



3 就労に関する平均時間

(1) 平均希望就業時間

希望する就業時間の平均値を性別に見ると、男性が33.0時間、女性が25.1時間となっており、特に、就学前の子ども、学齢期の子どもを持つ層において、男女差が大きくなっています。

また、年齢別に見ると、男性の平均希望就業時間は20歳代から50歳代まではほぼ変わりありませんが、女性の30歳代から50歳代までは男性よりも10時間程度少なくなっています(図表5.2.7)。

図表 5.2.7 平均希望就業時間(性別)

単位:時間

		男性	女性	計
1	全体	33.0	25.1	28.5
2	実際の就業時間別			
	就業していない	19.5	17.1	17.9
	1~35時間(パートタイム相当)	25.3	24.4	24.5
	35時間以上(フルタイム相当)	39.3	35.4	37.8
3	末子の年齢別			
	就学前	40.4	26.6	32.3
	学齢期(小学生~高校生)	40.6	29.1	33.4
	上記以外	31.0	24.0	27.2
4	年齢(10歳階級)別			
	20歳代	38.8	35.1	36.7
	30歳代	39.8	28.2	33.0
	40歳代	40.7	29.5	33.8
	50歳代	37.9	28.3	32.5
	60歳代	28.6	20.5	24.2
	70歳以上	21.9	15.5	18.6

(備考) 1 平均希望就業時間の算出にあたっては、希望する就業時間の各区分の中間値を使用して平均値を算出しています。その際に、「働きたくない」は0、「60時間以上」は65としています。

2 実際の就業時間別の「就業していない」は「専業主婦・主夫」及び「無職」の合計です。

(2) 平均就業時間

現在、実際に収入のある仕事に就いている方の就業時間の平均値を性別に見ると、男性が 45.1 時間、女性が 34.1 時間となっています、特に、就学前の子ども、学齢期の子どもを持つ層において、男女差が大きくなっており、20 時間程度の差があります。

また、年齢別に見ると、男性の平均就業時間は 20 歳代から 50 歳代まではほぼ変わりありませんが、女性の 30 歳代から 50 歳代までは男性よりも 15 時間程度少なくなっています（図表 5 2 8）。

図表 5 2 8 平均就業時間（性別）

単位：時間				
		男性	女性	計
1	全体	45.1	34.1	39.6
2	末子の年齢別			
	就学前	52.2	32.3	43.8
	学齢期(小学生～高校生)	50.5	31.8	39.8
	上記以外	42.6	35.1	38.9
3	年齢(10歳階級)別			
	20歳代	47.6	41.9	44.6
	30歳代	50.1	35.1	43.0
	40歳代	51.3	33.6	41.1
	50歳代	47.4	34.7	40.9
	60歳代	37.2	31.1	34.6
	70歳以上	32.1	28.9	30.8

(備考) 1 平均就業時間の算出にあたっては、現在の就業時間の各区分の中間値を使用して平均値を算出しています。

なお、60時間以上については、65として計算しています。

2 平均値の算出にあたっては、現在働いていない人や「わからない」という回答は含めていません。

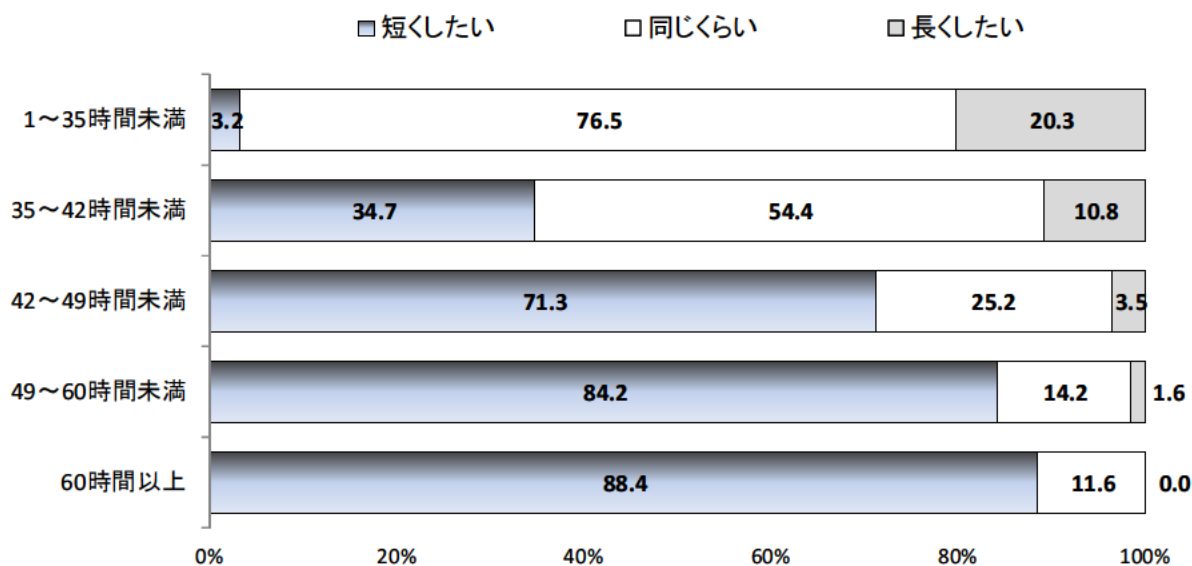
4 就業時間の希望と実際

(1) 希望する就業時間と現在の就業時間の関係

現在、収入のある仕事に就いている方について、希望と現在の就業時間を比較したところ、現在の就業時間が長くなるほど、就業時間を短くしたいと希望する割合が増加傾向にあります（図表 5-2-9）。

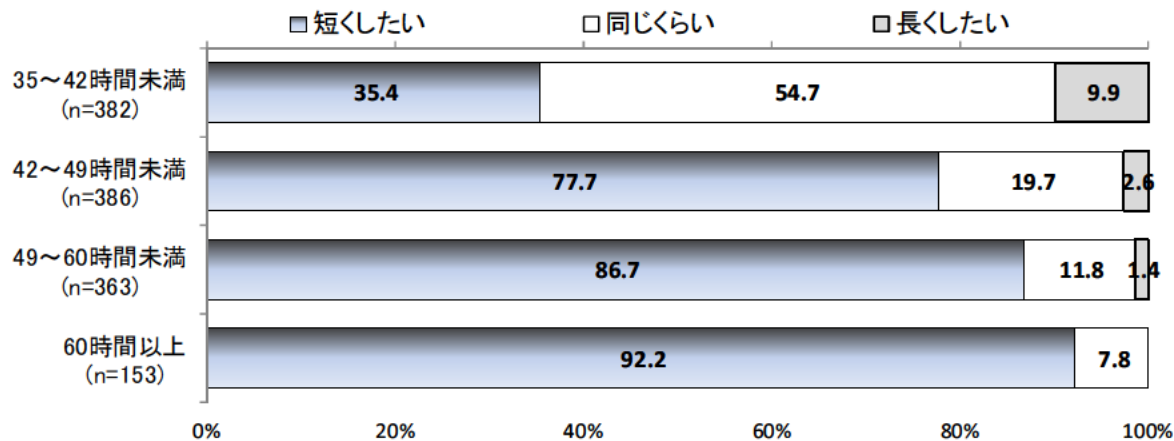
また、正規職員についても同様の傾向があり、特に60時間以上働いている方の9割以上が就業時間を短くしたいと希望しています（図表 5-2-10）。

図表 5-2-9 希望する就業時間(現在の就業時間別)



(備考) 1 主な職業が農林水産業、自営業・自由業、正規職員、パート・アルバイト・派遣社員、その他の職業のいずれかで、かつ現在と希望の就業時間のいずれにも「わからない」以外の回答があったものを対象に集計。(n=3,165)
 2 短くしたい…希望する就業時間で回答した選択肢が、現在の就業時間で回答した選択肢より短い区分の場合
 同じくらい…希望する就業時間で回答した選択肢が、現在の就業時間で回答した選択肢と同じ区分の場合
 長くしたい…希望する就業時間で回答した選択肢が、現在の就業時間で回答した選択肢より長い区分の場合

図表 5-2-10 希望する就業時間(正規職員)(現在の就業時間別)



(備考) 実際の就業時間が1～16時間 (n=10)、16～35時間 (n=29) については、サンプル数が少ないため、省略している。

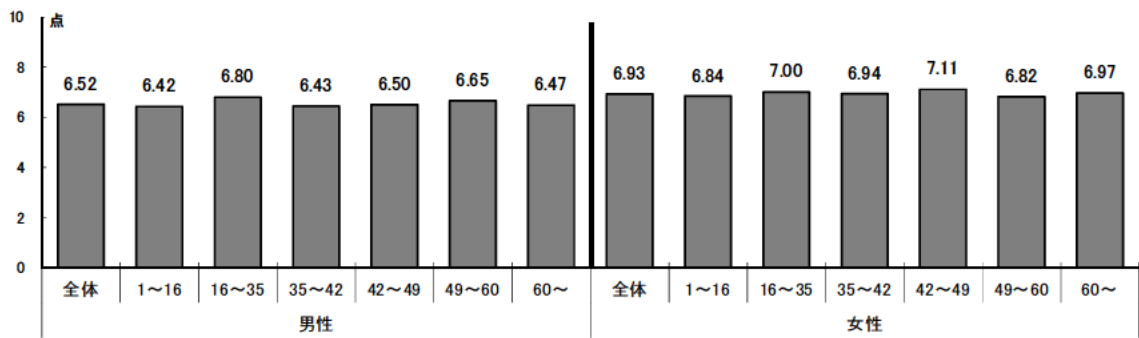
(2) 就業時間の希望と現実と幸福感との関係

一週間の平均就業時間の長さや幸福感の平均値を性別に区分して見たところ、**就業時間が長い方が、あるいは短い方が幸福感が高い、といった特徴は男女とも見られません** (図表 5 2 11)。

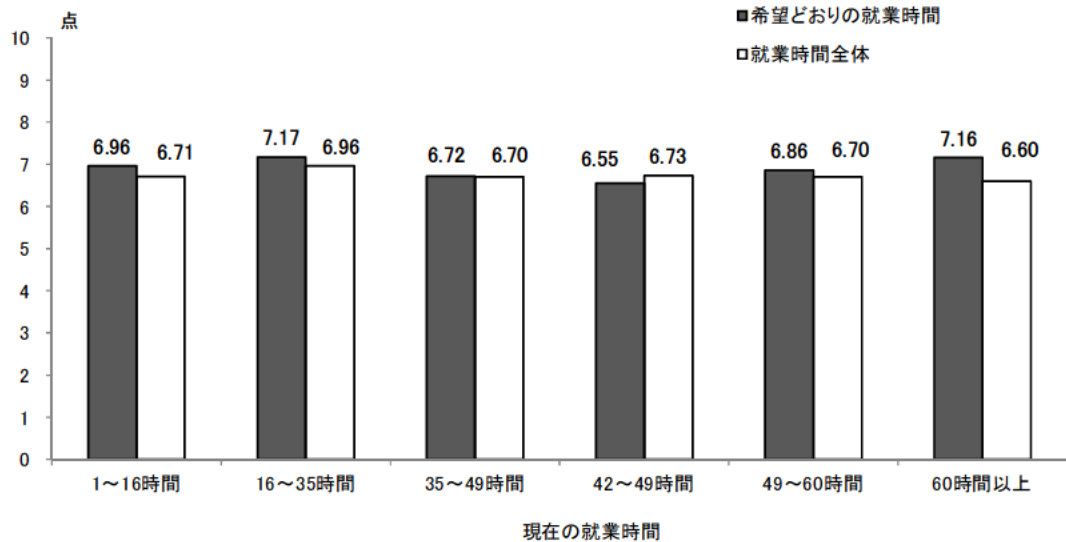
一方、現在の就業時間別の幸福感の平均値と、希望どおりの就業時間の方の幸福感の平均値を比較すると「42～49 時間未満」の層を除き、希望どおりの就業時間の方の幸福感の平均値が各就業時間別の幸福感の平均値を上回っています (図表 5 2 12)。

実際の就業時間の長短よりは、就業時間が希望どおりかどうかの方が、幸福感に影響をしている可能性が考えられます。

図表 5 2 11 一週間の平均就業時間による幸福感(性別)



図表 5 2 12 幸福感の平均値(現在の就業時間別)(希望どおりの就業時間と就業時間全体)



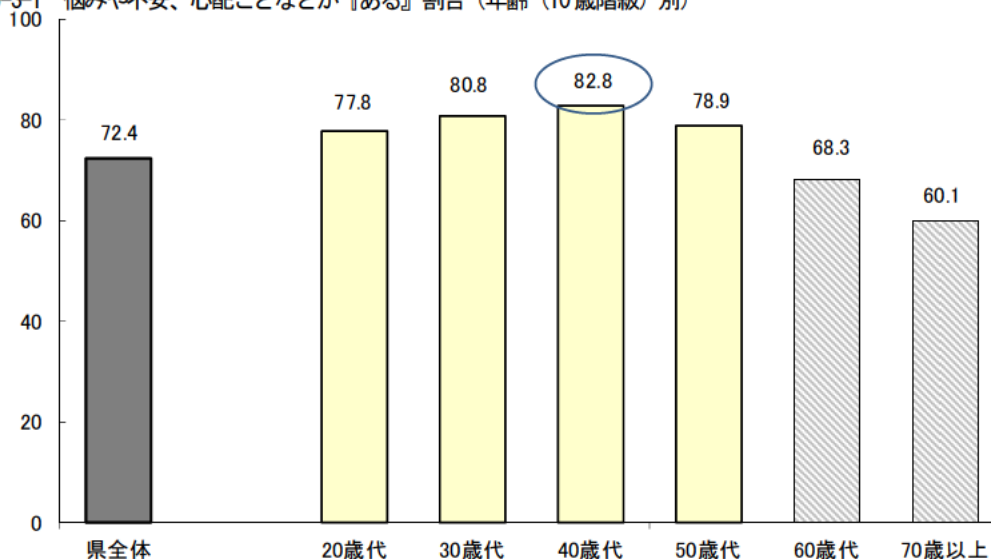
第3節 仕事と生活に関すること

1 悩みや不安、心配ごとなどについて

(1) 年齢別の特徴

「悩みや不安、心配ごとなどはあるか」の質問に『ある』（「ある」と「どちらかといえばある」の合計）と答えた方の割合は、県全体では72.4%となっており、年齢別に見ると、20～50歳代では『ある』の割合が高く、60歳以上では低くなっています。特に40歳代では82.8%と最も高い割合となっています。（図表5-3-1）。

図表 5-3-1 悩みや不安、心配ごとなどが『ある』割合（年齢（10歳階級）別）



また、年齢別に、悩みや不安、心配ごとなどの原因を見ると、40～50歳代を境目に、若年層では仕事、職場、子どもに関する項目の割合が高く、高年層では自分や家族の健康状態、介護に関する項目の割合が高くなっています。また、収入や家計については、30～50歳代での割合が高くなっています（図表5-3-2）。

図表 5-3-2 悩みや不安、心配ごとなどの原因別割合（年齢（10歳階級）別）

単位：%

原因	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
収入や家計	52.6	55.6	● 64.8	● 58.7	● 56.9	○ 49.2	○ 34.2
自分の健康状態	44.0	○ 20.7	○ 28.0	○ 34.6	43.8	● 53.0	● 65.5
家族の健康状態	40.3	○ 20.7	○ 26.5	38.2	● 45.8	● 46.3	● 47.3
子どもの将来	27.4	○ 6.1	○ 22.6	● 38.8	● 41.7	27.4	○ 11.5
高齢者や病人などの介護	23.1	○ 5.1	○ 9.6	22.5	● 36.9	● 27.9	○ 20.3
仕事や勉強	21.9	● 57.3	● 36.5	● 31.9	22.4	○ 6.9	○ 2.0
家族関係	17.8	15.9	18.2	● 20.8	17.9	16.1	16.7
職場や学校での人間関係	13.3	● 33.6	● 19.5	● 19.7	● 16.2	○ 4.1	○ 0.4
子どもの教育	11.6	○ 7.1	● 30.8	● 26.3	○ 6.0	○ 1.4	○ 1.0
近所づきあい	10.0	○ 5.4	9.8	11.5	9.9	10.3	9.9
親せきづきあい	9.3	7.8	○ 7.0	9.2	10.1	9.2	10.9
育児、子どもの世話	6.7	● 11.5	● 25.4	● 9.1	○ 1.5	○ 0.8	○ 0.9
通勤・通学・通院などの移動	4.6	● 9.2	5.5	5.1	4.0	○ 3.3	3.7

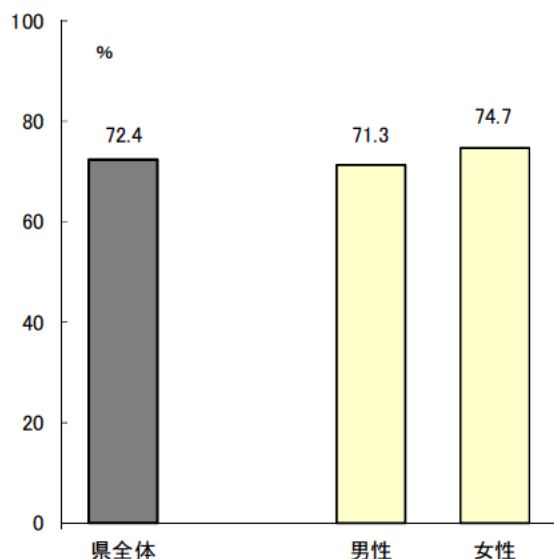
（備考）●…県全体との割合の差が有意に高い（危険率5%未満）

○…県全体との割合の差が有意に低い（危険率5%未満）

(2) 性別の特徴

悩みや不安、心配ごとなどについて、性別に特徴を見ると、『ある』の割合は、女性が男性よりも高くなっていますが、大きな差は見られません(図表5-3-3)。

図表 5-3-3 悩みや不安、心配ごとなどが『ある』割合(性別)



なお、性別に、悩みや不安、心配ごとなどの原因を見ると、男性については「仕事や勉強」の割合が高く、女性は、「子どもの教育」、「育児、子どもの世話」の子どもに関することと「家族の健康状態」、「家族関係」の家族に関することの割合が高くなっています(図表5-3-4)。

図表 5-3-4 悩みや不安、心配ごとなどの原因別割合(性別)

単位: %

原因	全体	男性	女性
収入や家計	52.6	53.9	51.6
自分の健康状態	44.0	45.9	42.5
家族の健康状態	40.3	○ 36.8	● 42.8
子どもの将来	27.4	25.7	28.7
高齢者や病人などの介護	23.1	22.2	23.7
仕事や勉強	21.9	● 30.1	○ 15.9
家族関係	17.8	○ 14.6	● 20.1
職場や学校での人間関係	13.3	14.7	12.2
子どもの教育	11.6	○ 8.5	● 13.9
近所づきあい	10.0	8.9	10.8
親せきづきあい	9.3	○ 6.9	● 11.0
育児、子どもの世話	6.7	○ 4.1	● 8.7
通勤・通学・通院などの移動	4.6	4.4	4.7

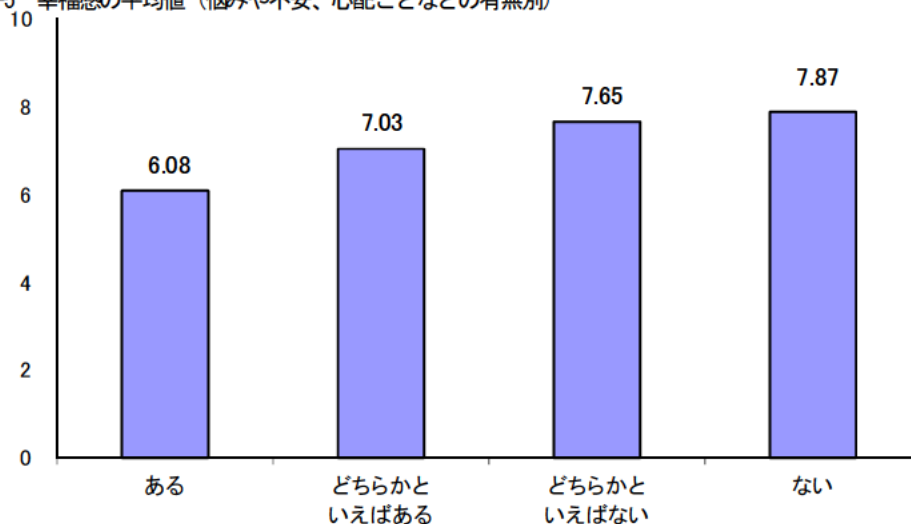
(備考) ●…県全体との割合の差が有意に高い(危険率5%未満)

○…県全体との割合の差が有意に低い(危険率5%未満)

(3) 幸福感との関係

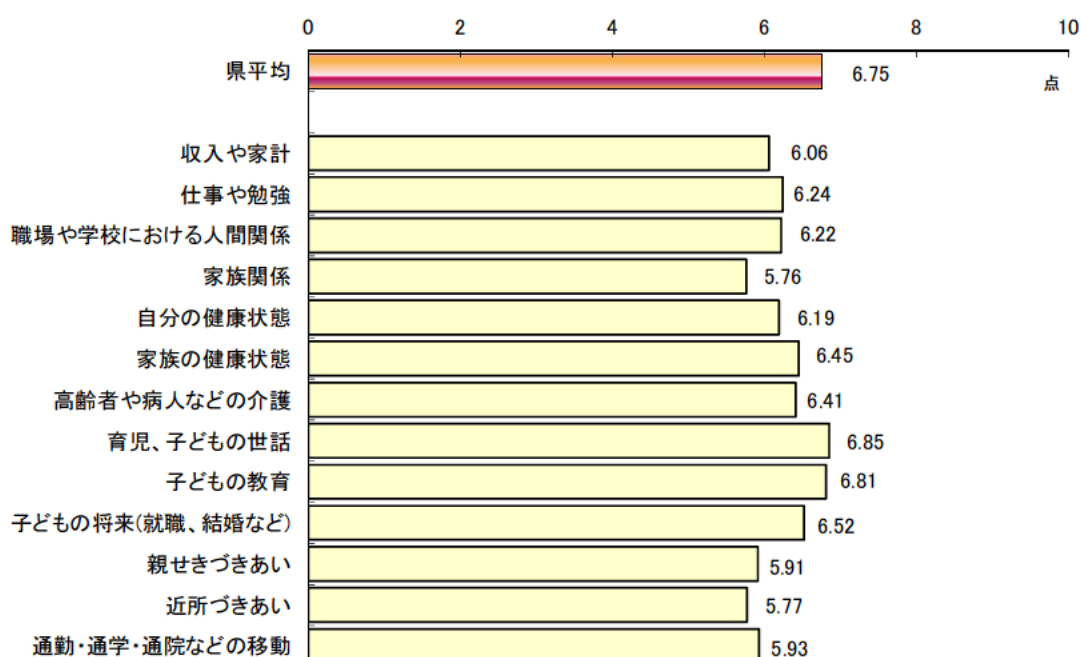
「悩みや不安、心配ごとなど、精神面で負担となっていることはあるか」の回答別に幸福感の平均値を集計したところ、「ない」と回答した人は7.87点と最も高く、「どちらかといえばない」が7.65点「どちらかといえばある」が7.03点で県平均(6.75点)よりも高くなっており、**悩みや不安、心配ごとの有無と幸福感の間には関連が見られます**(図表5-3-5)。

図表 5-3-5 幸福感の平均値(悩みや不安、心配ごとなどの有無別)



また、悩みや不安、心配ごとなどの『ある』人にその原因を質問したところ、「**家族関係**」と回答した人の幸福感の平均値は5.76点と最も低く、「**近所づきあい**」と回答した人が5.77点となっています(図表5-3-6)。

図表 5-3-6 幸福感の平均値(悩みや不安、心配ごとなどの原因別)

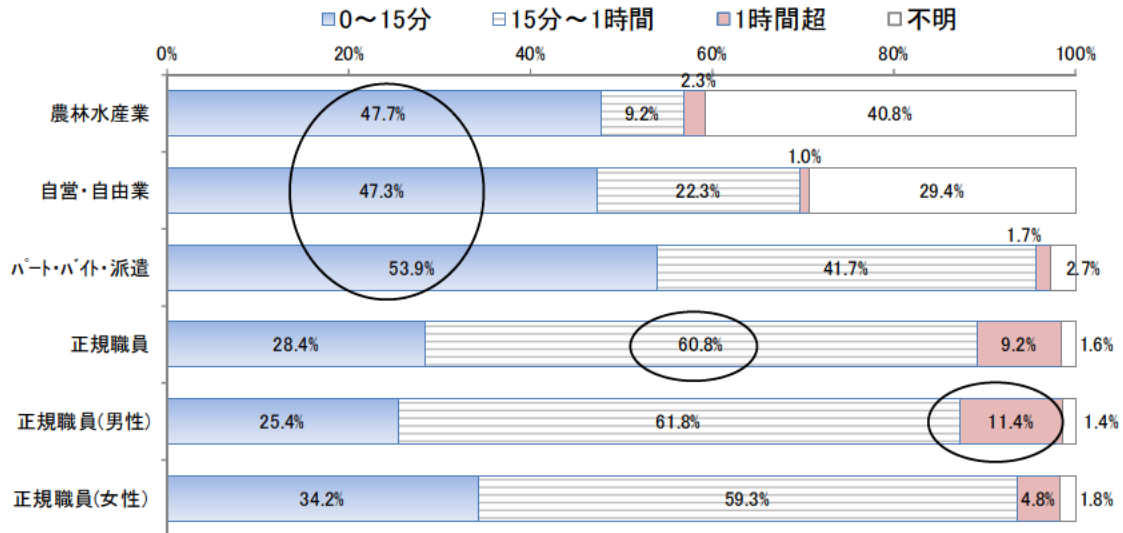


2 通勤など仕事に関わる時間について

(1) 通勤時間

通勤時間の割合を職業別に見ると、農林水産業、自営・自由業、パート・バイト・派遣社員などでは「15分以内」が最多となっていますが、正規職員では、「15分～1時間」が最も多くなっています。また、正規職員を性別に見ると、男性の正規職員では1割以上が「1時間超」となっており、就業時間の長さに加えて通勤時間も長くなっています(図表5-3-7)。

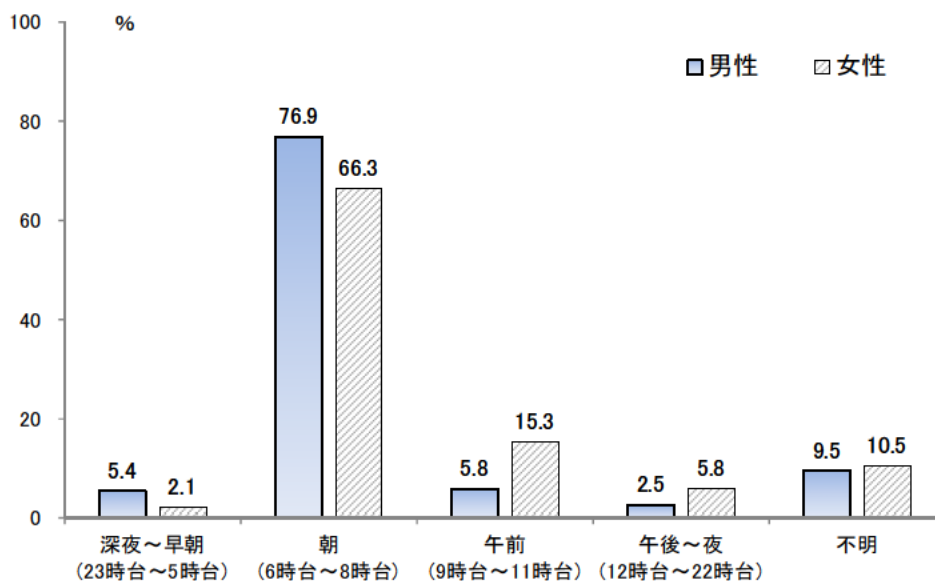
図表 5-3-7 通勤時間の状況(職業別)



(2) 出勤時刻

出勤時刻の状況を性別に見ると、男女とも朝(6~8時台)に集中していますが、女性は午前(9~11時台)も15%程度あります。また、1割未満ですが、夜、深夜、早朝等の出勤も見られます(図表5-3-8)。

図表 5-3-8 出勤時刻の状況(性別)

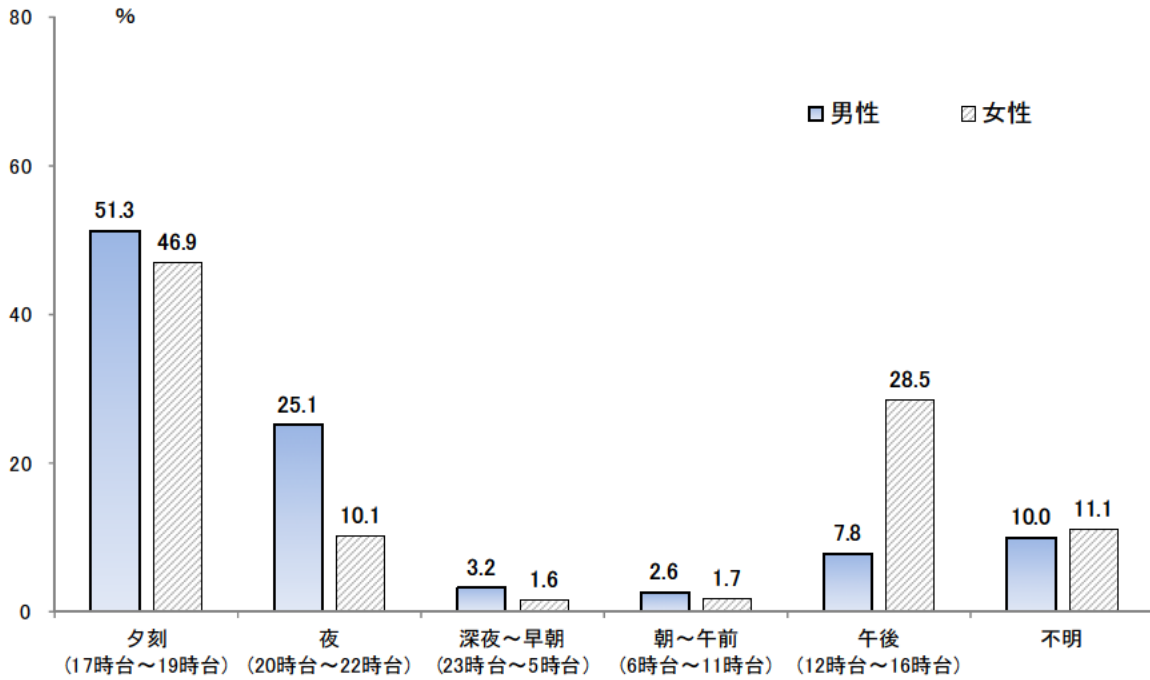


(3) 帰宅時刻

帰宅時刻の状況を性別に見ると、男女とも夕刻(17～19時台)が最多ですが、男性は夜(20～22時台)、女性は午後(12～16時台)も多く見られます。また、少数ですが、その他の時間帯も見られます(図表5-3-9)。

また、末子が就学前の方を対象に同様の集計をすると、全体よりも男性の帰宅時刻が遅く、女性の帰宅時刻が早くなる傾向が見られます(図表5-3-10)。

図表 5-3-9 帰宅時刻の状況 (性別)



図表 5-3-10 末子が就学前の人の帰宅時刻の状況 (性別)

